

令和6年度第2回碧南市子ども・子育て会議 会議録

1 日時

令和6年10月7日（月）午後1時30分～午後2時10分まで

2 場所

碧南市役所2階 談話室1・2

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者 鈴木政枝、小田直樹、水野裕子、杉浦時雄、兵藤俊宏、清澤和音、
角谷亜哉、水野紀子、森繁一、鈴木忠義、稲生貴弘、田邊光徳、近藤雅明、
加藤里美、栗並えみ、安本直美、渡部努（委員兼アドバイザー）

(2) 欠席者 杉浦龍一、長濱みち、新美慶太郎

(3) 事務局職員 福祉こども部長 深津広明、こども課長 鈴木美奈子、
こども課指導保育士 永井邦枝、こども課指導主事 杉浦由美子、
こども課幼保係係長 鈴木洋平、
こども課育成支援係係長 長澤貴行、育成支援係主事 高橋梨香、
福祉課課長補佐兼発達支援係長 鈴木信恵、
健康課課長補佐兼母子保健係長 杉浦あゆみ

4 傍聴者 なし

5 議題

(1) 第3期碧南市子ども・子育て支援事業計画（案）について

6 議事録

(1) あいさつ（鈴木会長）

(2) 議題

ア 第3期碧南市子ども・子育て支援事業計画（案）について

事務局が資料に基づき説明

A委員：産後ケア事業について今年度拡充されたという説明があったが、具体的にどのような拡充があったのか教えていただきたい。

事務局：1つ目は利用条件について。以前は利用にあたっての条件がいくつかあったが、令和6年度からは利用したい人は誰でも利用できるようになった。

次に、利用料について。サービスによって金額は異なるが、本人の負担分が

以前の半額となった。また、今までは訪問によるケアは行っていなかったが、令和6年度からは実施している。

A委員：支援事業計画について、前回から追記された部分を中心に確認したが、残念な部分があった。事務局から提案され、前回の会議で承認された小規模保育や幼稚園保育園の統廃合の追記はあったが、会議内で出た意見が反映されていない部分があった。前回会議の中で意見が出たワンオペで育児に苦労している方への支援として、産後ケアが拡充されたことは良い部分だと感じたが、外国籍の家族に対する支援について計画に追記されているところがない。外国籍の方がこの会議に出席することは難しく、ニーズ調査のアンケートでも、どれだけ正確にニーズが拾えているか分からない。アンケートでは拾えないようなニーズについて意見を出し合い、政策に反映させていくのがこの会議の在り方だと思うので、検討していただきたい。

外国籍の方への支援については、令和元年度、2年度に国の調査研究事業があり、結果が公表されている。結果を見ると、具体的な支援方法について自治体の事例等が示されているので、参考にしてもらいたい。

事務局：前回会議で外国籍の方への支援についてご意見をいただいたが、現時点では実施について計画に明確に記載ができない状態である。課題であると認識しているので、計画への記載の有無に関わらず、今後も支援の方法を検討していく。国の調査研究についても確認していく。

B委員：「地域子ども・子育て支援事業について」という見出しがあるが、何を指しているのか分かりにくい。誰が見ても分かりやすいようにするとよりよくなると思う。また、自分は現在こども食堂を運営しており、こども家庭庁も力を入れている子どもの居場所づくりという面で地域の担い手になれていると感じている。計画への記載は難しいかもしれないが、市との協力体制ができるとより良いと思う。

事務局：こども達の第3の居場所として児童センターやこどもプラザがあるが、それ以外でも地域の居場所が必要となっている状況であるため、こども食堂がこども達の居場所になっているということは心強いなと感じている。できる限り連携していきたい。

C委員：西尾市の産婦人科へ1か月健診等に行くことがあるが、ベトナムの方が

増えている。その産婦人科にはベトナム語の通訳者がいるため、西尾市だけでなく碧南市や知立市など、他市からの利用者も多く、7月時点で昨年の出生数を上回っている。参考にしていきたい。

事務局：保育園幼稚園もブラジル国籍だけでなくベトナム国籍の方が増えている状況である。言語を訳すだけでなく、文化や生活習慣の違いなどを理解しながら支援する必要がある。

事務局：先ほどの栗並委員の意見についてだが、前回の会議で外国籍の方への支援についてご意見があったため、保育園の主任会議内で業務の改善について話し合った。一番良い方法として挙げられたのは、ベトナム語の通訳による園の巡回訪問であったが、通訳者は毎回替わるのではなく、固定の方が望ましいという意見が出た。現在保育園に通っているポルトガル語のこどもの人数と比較すると、ベトナム語のこどもは約半数である。ポルトガル語と同じように対応するには予算的に難しいという面もある。今回計画に記載はできなかったが、今後も検討していきたい。

D委員：妊婦の健康診査についてだが、妊婦の公費券は多胎の場合は追加されるのか。

事務局：多胎は妊婦健診が5回追加される。

D委員：多胎の方は妊婦健診の頻度が増え、産後もハイリスクの事例に入る方もいるため、支援があることは心強く感じる。

次に、子育て世帯訪問支援事業についてだが、家事支援に加え、育児支援の事業者が見つかったことは嬉しく思う。この事業について国のガイドラインを確認したが、産後ヘルパーと比較すると使うハードルは高いのか。

事務局：子育て世帯訪問支援事業の対象者は、家庭で子育てや家事等に不安や負担を抱える妊産婦等であり、産後ヘルパーと違い、不安や悩みを傾聴し、家事支援をすることで、虐待を防止するという目的の事業である。

D委員：よりハイリスクな家庭への支援だということが分かった。

仕事で乳幼児や妊産婦と関わることが多いが、家事支援や産後ヘルパーなどの支援がないことに対する意見をもらうことがある。安城市や刈谷市では産後ヘルパーや産前の支援事業がある。碧南市でも検討していきたい。

事務局：現在碧南市では産後ヘルパーの事業は行っていないのが現状である。今後の

参考にしていきたい。

(3) その他

C委員：10月から高校生まで医療券が拡充されたことに感謝したい。現在アトピー性皮膚炎の新しい治療薬が出ているのだが、3割負担でも1か月約3万円かかる。以前は高校生になると治療を続けられない方がいたが、10月から治療を再開できたという例があり、嬉しく思う。

インフルエンザワクチンが今年もこれから始まっていく。1歳から18歳に向けて経鼻ワクチンがあるが、注射に比べて値段が高い。名古屋市のようにインフルエンザワクチンも補助があると良い。

E委員：マイノリティの方への支援が必要になってくると感じた。ニーズをしっかりと把握しながら、1つ1つ対応していくことが大切になる。事業を実施するためには準備等が必要なため、計画に現れるまでにはタイムラグが出ることは仕方ないが、しっかりとニーズを掴んで対応してほしい。

また、子育て支援にはどうしても保育者の確保が必要であり、どこの市町村でも課題となってくる。人材がいなければ充実した支援も実施的できなくなってしまうため、引き続き人材確保に力を入れていただきたい。

事務局：皆様から貴重なご意見、ご指摘をいただいた。今すぐ計画に反映することができない部分もあるが、できる限り支援に反映させたい。次回は計画策定に向けた最後の会議となるが、子育て支援について引き続き歩みを止めずに進めていきたい。